

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和5年度学校評価 結果・学校関係者評価

達成度(評価)
A: 十分達成できている
B: おおむね達成できている
C: やや不十分である
D: 不十分である

| | |
|------------------|--|
| 学校名 | 武雄市立山内東小学校 |
| 1 前年度 評価結果の概要 | ・最終評価にむけて数値目標を向上させることができたが、常に数値目標以上となるよう目指していきたい。 ・さらなる「学力の向上」と「楽しい学校づくり」の実現を目指していきたい。 ・新型コロナウイルス感染状況と働き方改革の視点から、今後の行事や活動の在り方を考えていきたい。 |
| 2 学校教育目標 | ひるまず がんばる しき(志気)の高い児童の育成 ～地域と共にある学校づくりを通して～ |
| 3 本年度の重点目標 | ①「あいさつ日本一」を目指すなど、目標に向かって努力する志の高い子どもを育成する。 ②基礎基本を身につけさせる指導の徹底、ICTを活用した効果的な実践、客観テストや調査結果をもとにした指導改善などを共有し、日々の授業改善につなげる。 |

| 4 重点取組内容・成果指標 | | | | 中間評価 | | 5 最終評価 | | 学校関係者評価 | 主な担当者 | |
|------------------------|---|---|---|--|--|---|---|--|--|-----------------------------------|
| (1)共通評価項目 | | | | 中間評価 | | 最終評価 | | | | |
| 評価項目 | 重点取組 | 成果指標(数値目標) | 具体的取組 | 進捗度(評価) | 進捗状況と見通し | 達成度(評価) | 実施結果 | | | |
| ●学力の向上 | ○全職員による共通理解と共通実践・学習内容の定着に向けた分かりやすい授業の実践 | ○教師アンケートで「授業づくり1・2・3 vol.1 & 2」を意識した授業実践を行った割合を80%以上 | ・授業づくりのステップ1・2・3 Vol.2」を踏まえ、授業の中で、自分の考えを書いたり、説明したりする活動をし、児童の考えを交流させる。 | B | ・「授業づくりのステップ1・2・3Vol.2」を活用した授業実践が「十分できている」と答えた教師は18.8%、「おおむねできている」と答えた教師は81.2%であった。今後もしっかり授業実践を目指し取り組む。 | B | ・「授業づくりのステップ1・2・3Vol.2」を活用した授業実践が「十分できている」と答えた教師は11.8%、「おおむねできている」と答えた教師は76.5%であった。今後も授業実践が「高い水準の結果につながっていくよう努めていきたい」。 | B | ・授業参観時の先生方の子どもたちに対する声かけがよいと思う。教室に飾ってある子どもたちの作品等も素晴らしい。 ・学習状況調査の結果から算数はよいと思うが、国語の書写的育成に今後力を入れてほしい。 | ・学力向上コーディネーター ・学習部 |
| | ●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動することなど、豊かな心を身に付ける教育活動 | ○児童アンケートで「相手がいやがることをしない、いわない」の達成率を80%以上 | ・人権集会を実施(人権標語に取り組み)し、学級での振り返り指導を実施する。 ・授業参観で、年1回「ふれあい道徳」を実施し、地域や保護者に公開する。 | A | ・「相手がいやがることをしない、いわない」で肯定的な回答をした児童は94.3%であった。「できない」児童への指導支援を今後も継続していく。 ・6月の授業参観で「ふれあい道徳」を実施し、保護者とともに児童の道徳性を高めていくための時間をもつことができた。 ・11月に人権集会を行い、標語を発表したり、人権に係る読み聞かせをしたりしながら子どもたちの人権意識を高める。 | A | ・「相手がいやがることをしない、いわない」で肯定的な回答をした児童は96.4%と、前回の結果をさらに2.1%上回った。 ・11月に人権集会を人権に係る読み聞かせをしたり、相手と接する際の言葉かけの在り方について話し合ったりして児童の人権意識を高めることができた。集会後も、相手と接する言葉を書いたり振り返りさせたり、書かれて嬉しい言葉を掲示したりしながら継続して指導することができた。 | A | ・集会や授業参観等において、いろいろな工夫を凝らしながら取り組まれていることに感謝している。 ・相手のことを思う気持ちもこれからは高めていってほしい。 ・いじめが表に出ずに隠れている部分があるかもしれないという心配はあるが、子どもたちがいつも笑顔であればと思っている。 | ・人権同和教育担当 ・道徳主任 |
| | ●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実 | ○いじめ防止等(いじめの定義、いじめの防止等)のための取組、事案対応等)について「組織的対応ができている」と回答する教員の割合を80%以上 ○児童アンケートで「学校が楽しい」と回答する割合を80%以上 | ・生活アンケートを行い、いじめや生徒指導上の問題の早期発見、早期対応に努める。いじめを覚知した場合は、すぐに校長をトップとしたいじめ対策委員会を開き、組織で対応策を考え、児童に寄り添った対応を図る。 ・「学校が楽しい」と答える児童がいない場合は、しっかりと寄り添い、少しでも楽しく感じられるよう教育相談を充実させる。 | B | ・いじめの防止等について組織的対応が「十分できている」と答えた教師は47.1%、「おおむねできている」と答えた教師は52.9%であった。 ・「学校が楽しい」と回答した児童は、1～3年は89.7%、4～6年は92.7%であった。いじめアンケートや、ふれあいアンケートから、楽しいと回答した児童の困り感や友達関係に注意深く見ていく必要がある。 | A | ・「学校は、いじめや生徒指導上の問題の早期発見に努めていると思う」と回答した保護者は「とても思う」が20.9%、「思う」が75.2%であった。さらに安心してもらえるよう早期発見、早期対応に努め、いじめ対策委員会を開いて組織としての対応を行っていききたい。 ・「学校が楽しい」と回答した児童は全校で89.4%であった。さらに「楽しい」が増えるよう、児童に寄り添った支援に努めていきたい。 | A | ・学校側は、子どもたちに寄り添うことができていると思う。これからは問題が大きくなりないうちに早期発見、早期対応に努めてほしい。 ・学習等も大切だが、小学校は子ども同士で友だちをつくらなければならないと思う。コミュニケーションを上手にとって成長して欲しい。 | ・生徒指導主任(生活部) ・教頭 |
| | ●◎児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動 | ●「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した児童生徒80%以上 ●「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童生徒80%以上 | ・児童に対して「褒めて伸ばす」姿勢で臨み、児童のよさを見つけた時には、その都度言葉で表現して伝える。 ・高齢者体験、手話体験、車椅子体験等、体験活動を通して、将来の職業や生き方に対する見方、考え方を学ばせる機会を設定する。 | A | ・「先生がよいところを褒めてくれている」について肯定的な回答をした児童は83.9%であった。これからは児童に対して褒めて伸ばす姿勢で臨んでいくようにする。 ・「自分の夢や目標に向かって努力している」について肯定的な回答をした児童は95.9%であった。 | A | ・「先生がよいところを褒めてくれている」について肯定的な回答をした児童は84.7%と、前よりも0.8%伸びた。これからは褒めて伸ばす姿勢をモットーに取り組んでいきたい。 ・「自分の夢や目標に向かって努力している」について、肯定的な回答をした児童は94.1%であった。 | A | ・どの先生方も子どもへの対応が丁寧である。これからは褒めて伸ばすを続けてほしい。 ・子どもたちの「やる気」「楽しい」を引き出すのは、先生方の力だと思ふ。 ・目標を持つとやる気につながる。これからは目標を持って取り組んでほしい。 | ・全職員 ・総合的な学習主任 ・特別活動主任(特活部) |
| | ○志の高い子どもを育成するための教育活動 | ○学校全体で「あいさつ日本一」を掲げ、学年に応じた日本一のあいさつを意識させ、あいさつが「できている」と回答する割合を80%以上 | ・日ごろから「あいさつ日本一」を合言葉にして生活をしよう奨励するとともに、全校朝会などで定期的「あいさつ」について振り返る機会を持ち、いつもあいさつをしようとする意識を高める。 | B | ・元気のよい挨拶が「よくできている」と答えた児童が52.3%、「だいたいできている」と答えた児童が40.2%であった。今後も朝のあいさつ運動等を通して、進んで挨拶をしようとする気持ちを育てるとともに、人と出会ったときに挨拶をする習慣を身に付けさせる。 | B | ・元気のよい挨拶が「よくできている」と答えた児童が49.4%、「だいたいできている」と答えた児童が40.0%であった。「あいさつ」に挨拶に対する意識付けを行ったり、挨拶運動に取り組ませたりしたことで、自発的に挨拶をする児童も見られるようになってきたが、個人差があるため、これからも人と出会ったときに挨拶をするように呼びかけたい。 | B | ・少し恥ずかしがる子もいるが、手を振ってくれたり、可愛い挨拶を受けたりした時には嬉しなる。 ・高学年になると恥ずかしいからか、挨拶がよくない子が多い。 ・挨拶などできると気持ちがいい。さらなる習慣付けをお願いしたい。 | ・生徒指導主任(生活部) |
| ●望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成 | ●「健康に良い食事をしている」児童生徒80%以上 ○児童・保護者アンケートで「毎日朝ご飯を食べている」割合を90%以上 | ・生活状況調査や食に関する意識調査などを実施する。 ・保護者やアンケートを通して、朝食をとることの大切さの理解と啓発を行う。 | B | ・「好き嫌いをせずに食事をしている」で、肯定的な回答をした児童は85.7%であった。 ・毎日朝ご飯を食べている児童は、89.1%であった。 ・好き嫌いをせずに食べることや朝食をとることの意義を理解させ、望ましい食習慣をさらに身に付けさせていきたい。 | B | ・「好き嫌いをせずに食事をしている」で、肯定的な回答をした児童は84.7%と、前回と同様に成果目標を上回った。 ・朝食の大切さについて、様々なお便りや掲示物等で啓発を行ってきたが、児童の朝食喫食率についての保護者の回答は76%にとどまった。「毎日朝ごはんを食べている」で、児童の85.7%が肯定的な回答をしていたが、保護者の回答とずれがあり、これからは継続して啓発していく必要がある。 | B | ・各家庭によって違いはあると思うが、子どもにはしっかりと食べるようにさせた。 ・朝ごはんは元気の源なので、毎朝食べるようにさらに啓発をお願いしたい。 | ・保健部 ・栄養教諭 ・食育推進担当者 ・保健主事 | |
| ○安全に関する資質・能力の育成 | ○防災教育を推進し、教師・児童のアンケートで「防災に対する意識が高まった」と回答する児童80%以上 | ・防災・減災課の出前講座を活用し、防災に関する知識を深める。 ・避難訓練や防災教室などを通して、安全教育や防災教育について意識を高める。 | A | ・避難訓練や防災教室などを通して、安全や防災について考えるようになった児童は93.7%、安全教育や防災教育について意識が高まった教師は100%であった。 | A | ・避難訓練や防災教室などを通して、安全や防災について考えるようになった児童は90.6%、安全教育や防災教育について意識が高まった教師は100%であった。 ・避難訓練では職員が準備した動画等で事前や事後指導を行い、意識を高めることにつながった。今後は、さらに実態に応じた準備をし効果を上げていきたい。 | A | ・今は、いろいろな学校行事等があり、時間の確保も難しいと思うが、これからは防災訓練を続けてほしい。 ・災害は、いつ起こるかかわからない。防災教育をさらに進めてほしい。 | ・生活部 ・指導教諭 ・教頭 | |
| ●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減 | ●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減 | ●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。 | ・定時退勤日(金曜)を設定し、メリハリのある勤務形態とする。 ・月ごとに在校時間集計を個別に配布し、在校状況を可視化しながら時間外在校等時間を削減していくとする意識を高める。 | B | ・超過勤務の削減を意図したメリハリのある勤務が「十分できている」、「おおむねできている」と回答した教師は76.4%であった。 ・今後タイムカード等を活用し、集計結果から勤務状況を把握し、超過勤務削減に向けた業務改善を図っていく。 | A | ・超過勤務の削減を意図したメリハリのある勤務が「十分できている」、「おおむねできている」と回答した教師は87.6%と、前回の回答を11.2%上回った。一人一人の超過勤務削減に対する意識の高まりが見られた。 | A | ・先生方がよく努力されていることがわかる。 ・仕事のメリハリは大切。先生方が健康で元気があつても、子どもたちの指導ができることを忘れてはならない。 ・先生方が、仕事をもち続けてまわってほしい。 ・先生方が、無理をされたい。 | 教頭 |
| ○行事・会議の効率化 | ○行事や会議の効率化を図り、児童と向き合う時間を確保する。 ○教師アンケートで「行事や会議の効率化により効果的な教育活動につながった」割合を80%以上 | ・スズキ校務やフォーム(アンケート機能)などICTの活用で業務の効率化を図る。 ・職員会議を2か月分一纏に提案するなど、会議の効率化を図る。 | A | ・「行事や会議の効率化により効果的な教育活動につながった」と回答した教師は87.6%であった。 ・スズキ校務やフォーム(アンケート機能)などICT活用により、業務の効率化ができてきている。 | A | ・「行事や会議の効率化により効果的な教育活動につながった」と回答した教師は82.4%であった。 ・「行事や活動を通した児童への効果」がどのくらいあるかを見極め、削れるもの「削れないもの」をさらに整理し、重点化した学校行事等を今後も実施していきたい。 | A | ・行事等を見ると、先生方の熱意が感じられる。 ・効率のよい行事、会議、研修等の進め方の工夫をこれからもお願いしたい。 | ・指導教諭 ・教頭 | |
| (2)本年度重点的に取り組む独自評価項目 | | | | 中間評価 | | 最終評価 | | 学校関係者評価 | 主な担当者 | |
| 評価項目 | 重点取組 | 成果指標(数値目標) | 具体的取組 | 進捗度(評価) | 進捗状況と見通し | 達成度(評価) | 実施結果 | | | |
| ○健康・体づくりの充実 | ○継続的に運動に慣れ親しみ、健康に対する意識の向上 | ・「スポーツチャレンジ」に1項目以上取り組む学年を100%にする。 ・う歯治療率を50%以上に上げる。 | ・「スポーツチャレンジ」強化月間を設け、結果を定期的に公表し、掲示する。 ・保健だよりで呼びかけたり、歯科校医と連携しブラッシング指導を行ったりしながら、虫歯に対する意識を高める。 | B | ・「スポーツチャレンジ」は、11月以降に強化月間を設ける計画を立てていた。 ・10月現在でう歯治療率は34.8%である。 ・11月の「歯と口の健康教室」を実施し、冬休み前に再度、保護者へ治療のお願いをする。 | A | ・「スポーツチャレンジ」に取り組むなど体力づくりの充実を図った」と回答した教師は、87.5%であった。 ・う歯の治療を長期休業前などに呼びかけたことで、2月現在のう歯治療率が43.5%まで向上した。今後も継続して呼びかけていきたい。 | | | A |
| ○特別支援教育の充実 | ○教員の専門性と意識の向上と一人ひとりの児童のニーズに応える教育の推進 | ○特別支援に関する専門性が向上した教員を80%以上に上げる。 | ・「気になる子」に関する情報交換の場を週1回設け、共通理解を図る。 ・ケース会議や職員研修の場を設け、合理的配慮に基づいた指導、インクルーシブ教育の視点に立った環境を整える。 | A | ・職員連絡会で「気になる子」についての共通理解の場をもつことができた。 ・公認心理士やよれれの特別支援学校の巡回相談等を通して、配慮が必要な児童への支援方法を見出し、特別支援に関する専門性が向上したと感じている教員は88.2%であった。 | B | ・週1回、職員連絡会で「気になる子」についての共通理解の場を設け、共通理解を図りながら対応することができた。 ・公認心理士やよれれの特別支援学校の巡回相談等を通して、配慮が必要な児童への支援方法を見出し、特別支援に関する専門性が向上したと感じている教員は、前回と同様88.2%であった。 | A | ・一人一人の子どもたちに対して、学校すべての先生方が全力で向き合ってくれていることに感謝している。 ・これからは子どもたちのために専門機関等とのつながりをもって取り組んでいきたい。 | ・特別支援コーディネーター ・教育相談担当 |
| ●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育 | | | | | | | | | | |
| 5 総合評価・次年度への展望 | ・最終評価に向けて数値目標を向上させることができた。これからは数値目標以上となること目指していきたい。 ・さらなる「学力の向上」と「心の教育の充実」を目指していきたい。 | | | | | | | | | |